

ここが聞きたい 一般質問

主な医療制度見直し

窓口負担		現 行	今年10月以降	08年4月以降
75歳以上	一般	1割		
	現役並み所得者	2割	3割	
70～74歳	一般	1割		2割
	現役並み所得者	2割	3割	
小学生（69歳）	一般	3割		
	現役並み所得者	2割		
未就学児	3歳以上	3割		2割
	3歳未満	2割		

※現役並み所得者は、夫婦2人世帯で年収520万円以上（今年8月から）

質問 今年六月高齢者に対する医療制度改革法が成立し患者への費用支援が必要と考えます。また、老人介護施設の増設が必要です。市の対応について伺います。

市長 医療制度改革によって市民の皆様には一定の負担になりますが、市町村の国保税は厳しい状況であり軽減処置につきましては制度の状況をみきわめ更に精査してみたいと考えています。介護施設につきましては民営が事業主体となつて進める地域密着型サービス施設として十九年度は二十九人以下の特別老人ホーム一か所、通いを中心とした訪問や泊りを組み合せた多機能施設と認知症対応型一か所整備する予定となつております。

市民に安心の出来る医療を



あべ こうじろう
安部 皓三
議員

「医療は文化」だとも言われます。豊かな人間生活を送る上で欠かすことが出来ない新しい価値です。奥州市に住んで良かった安心して暮らせる「まちづくり」をしたいものです。

質問 合併後の市民の健康を守る保健活動と診療所等の連携、保健行政の組織体制について伺います。

市長 合併後奥州市健康づくり推進協議会を立ち上げ、奥州市健康増進計画二一プランを十九年度に向け策定中です。また、検診の受診率を高めるために自治区を越えた検診が出来るように医師会と話を進めています。組織体制は本庁の健康福祉部が中心となり進めます。

質問 医療を巡る状況は急激であり特に医師確保は大問題です。当市の医療計画策定を伺います。

市長 医療計画策定は奥が二十年度に医療計画の策定に入る前に前段として当市の医療計画を作り県とのすり合わせを行いたい。

質問 医療充実のため当市の各病院・診療所医業収益に対する繰入額の割合、また、医師確保と医師の処遇について伺います。

市長 十七年度決算で水沢病院約四億五千万円（実質）、まごころ病院約一億七千万円、前沢診療所約一億七千万円、衣川診療所約一億七千万円です。医師確保要請については市長・病院長含めて十七年度は（水沢病院）東北大学医学部・岩手医科大学には十八回、十八年度は十三回程お願いし、そのほか国保連等に出向いています。医師の処遇については旧五市町村時代それぞれの背景に基づき必死の取り組みをし、その結果頑張つて来たので処遇にはでこぼこがあります。今後より良い方向で処遇の改善をして行きます。



医療機器の更新が望まれる水沢病院

質問 水沢病院の管理者確保及び医療機器の更新について伺います。

市長 十月一日付けで水沢病院の管理者を発令します。当院の医療機器に限らず建物設備等は古く、医療機器の高度化を迎え、医師等の意識高揚の為に整備更新を行いたいのが財政事情のため優先順位を定め順次更新をしていきます。

高齢者への生活支援について 小中学生の「自然体験」の推進について



さとう かつお
佐藤 克夫
議員

質問 水沢病院・精神科整備計画と地域医療体制づくりについて

市長 水沢病院精神科の整備は療養環境整備が目的で、今後も県南地区の精神科病院としての役割が期待されています。退院促進治療がすすむ中、一部患者を六階に移動することの心配はないと考えます。

質問 高齢者への生活支援について、特に介護予防に向けての地域活動及び地域包括支援センターの活動状況について。

市長 「介護予防」を中心とした体制づくりが着々すすめられており、特に「地域ケア会議」は県内でも最も早くスタートし「地域